

あわせて行こう

「うのすまい・トモス」から車で50分

陸前高田

東日本大震災津波伝承館 (いわてTSUNAMIメモリアル)

DATA→P46



①「祈りの軸」が施設から一直線に海へとつながる

「高田松原津波復興祈念公園」内に設立された伝承施設で、国営追悼・祈念施設(→P47)や「道の駅高田松原」に併設しています。岩手県内の被災状況や、三陸沿岸の地理特性を踏まえた津波が起きる仕組みなどを解説し、発災直後に撮影された防災ヘリコプターの映像からは、震災当時の被災地の状況を伺い知ることができます。パネル展示やガイダンスシアター、常駐する解説員のサポートにより、さらに深い理解を促してくれます。

②約12分の映像が流れるガイダンスシアター



③津波でつぶれた消防車を展示



Recommend ここに注目!

この施設ができた当初は、まだ現物展示が珍しく、ほかにも日本の津波の歴史について学べるコーナーでは、地層を分析することにより、被災地域に津波が何度も訪れていることがわかります。エントランスから海へ抜ける風景も美しいので、復興祈念公園と併せて訪れていただきたいです。



東北大学災害科学国際研究所
北村美和子

4 迫りくる津波を見た 「山崎デイサービス」

発災から約30分ほどで到着した第2避難場所。その時点で児童だけではなく、逃げてきた地域の方や近くの保育園児、保護者など約1000人近くが集まりました。改めて整列点呼をしていたその時、はじめて迫りくる津波を目撃。現場は一気にパニック状態に陥り、先生たちの指示も聞こえないほどだったそうです。

真っ黒で大きな壁が轟音を立ててやってきた

④山崎デイサービスから海の方を眺める。最終的に津波は施設の手前まで到達した



後ろを振り返らず無我夢中に走った...

⑤山崎デイサービスから恋の峠まで続く坂道
⑥避難後に整列、点呼をしている当時の様子(写真提供:いのちをつなぐ未来館)

5 全力疾走して逃げた 「恋の峠」

津波を目撃してからは先生の指示ではなく、そこにいた全員が目散に坂道をかけあげりました。「恋の峠」は海拔44m。学校から恋の峠まで経由した避難場所は4カ所で、道のりにして約1.6km、実に約40~50分間を避難し続けることになります。



⑦教訓が記された釜石市防災市民憲章



6 「釜石祈りのパーク」で 祈りを捧げよう

プログラムの最後は、犠牲になられた方々の芳名を刻んだ芳名板や献花台を設けた慰霊・追悼の場所へ。空に大きく開けた広場には、鵜住居地区における津波浸水高約11mを表すモニュメントや防災センター跡地碑などが設置され、震災の教訓を後世へと伝え続けます。

⑧3月11日になると多くの方が訪れ、花を手向け、祈りを捧げる



⑨オンライン語り部をする川崎さん



「語り部活動を通して伝えたいことを教えてください。」
私たちが実際に避難した経路を体験することで、避難はどうすればいいのか、意外と体力を使うことなど自分ごととして捉えることができます。一人一人が津波が来るかもしれないと判断し、避難したことで命が救われたこと、備えることの大切さ、逃げることの大切さを感じ取っていただければと思います。

避難路追体験プログラム

今回参加したのは

鵜住居地区では多くの方が亡くなった一方で、小・中学生のほとんどは生還を果たしました。児童たちが実際避難した経路をたどることで、震災当時の出来事を肌で感じられる内容となっています。

所要 1時間30分 料金 1万1000円
※要予約

3 避難場所だった 「ございしょの里」で起きた異変

学校から避難し、最初にたどり着いた場所。普段の避難訓練で使われていた場所でしたが、すぐそばの山肌が崩れ始めたそうです。付近の住民が「今まで崩れたことは一度もない。もっと大きなことが起きるかもしれない」と先生たちに助言。そしてさらに上を目指すことになりました。

⑩震災前に行われた避難訓練の様子(右)と、震災直後の様子(左)(写真提供:いのちをつなぐ未来館)



住民のひと声でさらに高台を目指します

2 学校跡地に建てられた 「釜石鵜住居復興スタジアム」へ

ここには元々、鵜住居小学校と釜石東中学校がありました。海拔はわずか2m、小・中学生合わせて約570人が地震発生後すぐに高台へ避難を開始したそうです。津波は最終的に校舎の3階の高さまで到達したといい、そのままとどまっていたら...と考えると恐ろしくなります。

⑪ラグビーのW杯の試合が行われた復興のシンボルの存在は現在も土地をかさ上げし、震災当時の2階ほどの高さ約7mになっている



児童たちが最初にいた思い出の場所...

「震災当時の状況はどのようなものだったのでしょうか?」
「山崎デイサービス」に避難したとき、真っ黒で大きな壁のような津波を見ました。家がなぎ倒されて音も聞こえませんでした。生まれてはじめて、死ぬかもしれない、と思った瞬間でした。そこから高台を目指して全力疾走しましたが、疲れを忘

案内人 川崎杏樹さん



あの日のこと、そして未来へ伝えよう

震災を学ぶたび

震災伝承施設では、語り部ツアーや防災学習プログラムを行っている施設があります。現地の様子を体感しながら、東日本大震災を経験された方々の話を聞き、学びに生かしましょう。



1 まずは「いのちをつなぐ未来館」で 地域を知る

避難した196人のうち162人が亡くなった「鵜住居地区防災センター」。震災当時「避難拠点(中長期の避難場所)」ではあったものの、津波の緊急避難場所には指定されていませんでした。防災センターという施設名や、普段この場所で避難訓練が行われていたことで、地域住民の誤解を招いてしまったといいます。

⑫「東日本大震災と釜石」鵜住居地区防災センターの出来事「釜石の子どもたち」の3つのテーマで、パネルや映像、実物展示で震災の状況を解説



最も犠牲者が集中した場所で起きたこととは...

うのすまい・トモス

三陸鉄道鵜住居駅前に広がる「いのちをつなぐ未来館」「釜石祈りのパーク」「鵜の郷交流館」が一体となった公共施設。オンラインでも参加可能な語り部プログラムは、自分ごととして防災意識を高められる内容になっています。

DATA→P40(釜石祈りのパーク) P41(いのちをつなぐ未来館)

